



地方廳を訪れて (二)

一 記 者

○ 東京から漸次西へ来て愛知縣廳を訪れたのであつたが、

(以上前號計らずも宮島愛知縣土木部長の御怒に觸れて所論の一部取消の請求に遭つたから、新聞紙法の第何條やらに依つて左に取消文を登載しお次へ進むことにする。

本年七月一日附貴會發行「道路の改良」雜誌百十三頁ヨ

リ百四十七頁中ニ小生等ニ關スル記事掲載有之候處右ノ内輩下タル山田經理課長ニ關スル部分ハ全然事實無根ニシテ

迷惑不尠候條速ニ右記事御取消相成度新聞紙法第十七條ニ依リ此段及請求候也

昭昭六年七月十八日

愛知縣廳 宮 島 三 郎

三 重 の 卷

神宮の鎮座まします三重縣、昔から言ひ囃された土地だが、神宮參拜客を相手に成長した勢か、縣民は伊勢乞食と

言ふ餘り難有くもない渾名を貰つた、で餘り外見(三重)は飾らないが懷具合の良い連中が居ると言はれてゐる、縣廳だつて昔建てられた木造ぢやが矢張り外見を飾らない主義であらうか今も尙夫れが維持されてゐる、併し四苦八苦の懷でありながら無理までして近代式縣廳舎を建てハイカラがつて居るよりは氣がきいて居るやうな氣がする。

○
長官市村慶三、小柄であるが山

椒の實のやうに、性格は嚴肅一點

張りのやうにも見える、彼の口か

ら低調なウムマ々の聲を初耳した人

達は随分官僚系な男だと直感するのも無理

はないが、併し實は夫れ程に氣取り屋ではない、矢張り大

阪生れだもの利巧な所があつて如才がない、併し同じ大阪

産れでも金澤正雄程に俗化して居ないとところが彼れ市村の

特長であらう。



大正十年に奈良縣警察部長から皇宮警察長に爲つたとき彼の友人達は、四十三年大學を出てから今まで經驗した地方官の畑を見越つて雲上人の域に這入つたと言つたが、夫れは本人の意思ではなく宮内次官關屋貞三郎が、皇宮警察の改善を計るが爲に特に人選を内務省に頼んで來たので彼が行つた迄のことであつた、だから宮内省

へ這入つた彼は、彼を任命した理由

市に基いて皇宮警察制度を改善し其

村の手腕の程を認められ、十三年加

慶藤内閣のときに神奈川縣内務部長

三として再び地方行政の畑に戻つた

が、當時の長官は曾て彼が兵庫縣理

事官時代に仕えた清野長太郎であつた、實際

清野が彼を引張つたとも言はれてゐる、夫れで彼も亦舊知

否恩人に再會したので大に手腕を振ふであらうと期待さ

れたが、在任一年で太田警視總監の下に官房主事と爲つて

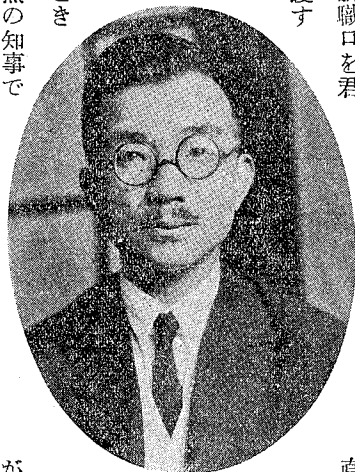
轉じた、夫れから十五年七月濱口内相のときに福井縣知事

に任官して愛媛から轉じて現官に爲つたのである。彼は部下を非常に可愛がる、會て某が其の部下の一人を誡首して呉れと彼に迫つたが、僕は人を誡めることは主義として反對だ人間は如何様なものでも用ふべき處がある、夫れ程誡めることを必要とするのなら退官後の就職口を君が見出し給へと言ふ位に部下を愛護する、人情味のあることは遂に彼を

今日あらしめた所以であらう。

素を洗えば憲政系を以て自他共に許した清野長太郎に見込まれ、榮轉の時機がいつも民政黨内閣のとき

であることからすれば、彼は民政黨の知事であるやうにも見える、併し今の内閣でも矢張り彼の行動を監視して疑視されてゐる連中だ。と言ふのは某大官がア一知事も居なければ内閣が變れば總ての知事を變えねばならぬからマ一可いサ、と言つたことに依つて判るが、一面から見れば夫れは彼が政黨政派に超越して縣政を料理す



ることを物語るものとも見える。

三重縣會は、いかに民政黨支部長の川崎克が頑張つて見ても、政友會全盛の地だから縣會を操縱する爲には時に宮田光雄と妥協もせねばならぬこともあるであらう。夫れを

直に政友會と策動したなどと彼を責むるのは無理であつて、筆者は彼の政黨超

別越の行動こそ純眞の地方長官として寧ろ賞するに足ると思ふ。併し秀政派的偏見に捉はれてゐる人の眼からは夫れとは思はないで矢張り

彼も問題の人として取扱はれることが無いとも限らぬ、昔は三重縣に名知事ばかり來たと言はれてゐるから、彼も政黨者流の批評を氣にかけずに思ふ所を實行することだ。

内務部長の別宮秀夫、是も亦長官市村に勝るとも劣らない才氣のある男。矢張り長官と同じ大阪産れである勢であらう。大正二年東大を出て見習内務屬時代は随分可愛がら

れたものだ。當時河港課長をしてゐた池田宏などは自分の子供のやうに彼を育てあげ、難治の熊本縣土木課長に送り出した。そこに留ること四年、政争激甚な處に若年の身で比較的長く在官したことは彼の如才のないことを物語るのであるが、彼も亦地方政治が實際困難なものであることを體驗したであらう。

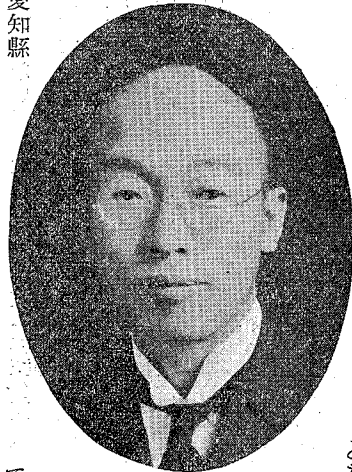
大正の大震災のときには救護事務局

局が創設され、臨時に多數の官吏が必要と爲つた。夫れも臨機の措置を探るだけの働きある人を要求されたので、地方廳に於て將來を囑望されてゐる若手理事官を抜擢し

て之に充てた、彼も其の選に入つて愛知縣

理事官から深川の配給所に救護事務をとることゝなつた。

此處で火事場式の事務に臨機應變の手腕を振つて一年を暮した、彼は今でも其の當時を追懷して地方官在任中いかな災害に遭つても措置するだけの體驗を得たと喜んでゐる。



併し幸か不幸か好男子に生れたことゝ内務省見習時代に悪友屬官に誘はれて酒を呑むことを見習つたことは、假令夫れが名古屋の花柳界に持てる事はあつたにしても、救護局時代には名古屋の空を眺めて淋しがつたと言ふことだ、今もチヨイ／＼名古屋で顔を見ることがあるが、酒を呑むことを網紀肅正に反すると言ふ知事もあるか

ら用心が肝要だ、併し斯様な譯で角

齋 がとれた男と爲つた、従つて長官

藤 に向つて苦言を以て諫言するやう

英 な勇氣を失つてゐることは頗る遺

夫 憾だ。

土木課長は齋藤英夫。彼は酒家を以て有名だ、御神酒をあがらぬ神様は日本

には無い筈だから、神都を持つ三重で酒を呑むのを咎めな
いが、主客顛倒して酒に呑まれてはならない。夫れに彼は
既に呑まれてゐる、だから前任地山梨でも當時の長官今の
三邊地方局長にも嫌はれた、併し今の長官市村は酒癖を夫

れ程に八ヶ間敷言ふやうな男でないから相變らず呑んでゐる、いつぞや木曾川の用水樋門に墜落して大怪我をしたのも矢張り酒の祟であつたらう、體も我がものと思へば尠しは自重して可い。

彼は東北の産だから言葉が餘り明瞭ではない、爲に自分の意見を對手に徹底せしむることに缺けてゐるが、相當な計畫も持ち意見もある男だ、今山梨縣でやつてゐる甲州街道の改良でも彼が計畫しておいたものを後に爲つて失業救濟と言ふ名を附けただけで其の效績の一半は彼に與えて可い、併し追々と歳をとつて矢張り地方政黨のことも考へるやうに爲つてゐるから其の爲に意見の實行を躊躇するやうに爲つた、能く言へば老成したのであらうが、頭の禿けた程の歳でも無い、無口の長官市村も餘程事業慾に悶えてゐるやうだから良い土木事業があれば必ず夫れを採用するに違ひない、宜敷建築して三重に山積してゐる土木問題を解決することが彼の任務である、併し近頃は度々病氣に見舞はれて床に伏すことが多いと言ふことだが、此度こそは禁

酒して再び活動することが必要であらう。

○ 歳出總額八百五十四萬圓、大縣と言ふ程の縣ではないが矢張り中流以上の縣と言つて可い、經常部に屬する土木費五十二萬六千圓、臨時部に屬するものは土木補助費と合せて二百四十八萬四千圓を計上してゐるから、約三百萬圓の土木事業がある譯だ、一流府縣と言はれてゐる京都や神奈川の夫れに凌駕してゐるから、土木事業だけの見地から見れば矢張り一流縣の格があると言つて可い。併し地勢の關係で災害に見舞はれることがあつて、災害土木費支辨の爲に六十七萬圓、普通土木費八十九萬圓其の他のものを加えて三百萬圓の借金を持つてゐる、併し此位の借金返還には困らないので、まだ起債能力はある筈だ。

母斐長良の架橋にしても愛知縣よりは一と足お先きに着手はしたが、下部工事を執行したゞけで上部構造の完成は愛知縣がお先きに爲ると言ふやうなことでは餘り大きな顔も出來ない、僅か百萬圓位の豫算を二ヶ年繼續にするのに

汗水流して慌てるやうな三重縣でもない筈だ、モ一渺し山
間方面の開發に盡したらお客のポケットマネーを的にせず
とも樂に暮して行けるから其の方面への投資を吝んではな
らない。

縣會議員の定員は三十四だが、矢張り政友會全盛の地だ
けあつて民政の十に對し政友は二十二を算してゐる、夫れ
に中立三名の内一名は政友系に屬するので政友は都合二十
三と爲る譯だ、で縣會では政友が絶對多數を占めてゐる、
併し代議士は地方政情の夫れを破つて民政六に對し政友は
二と言ふ有様だ。藤澤利喜太郎先生の讀本が示した數から
見ると、政友八二、三九六、夫れに民政は七六、八二四と
爲つてゐるから政友多數の地であるが代議士の選舉制が民
意に即してゐないことが判る。

縣會の正副議長が政友會の獨占に屬してゐるのは當然で
あるが、民政黨は前の遷信參與官川崎克を支部長に戴いて
川崎の乾分縣會議員の早川俊一を幹事長にして縣會の同派

をリードせしめてゐる、代議士の仲間でも池田敬八と牛場
清次郎とは餘り仲が良くない、従つて池田は川崎に味方し
牛場は松田庄一に加擔すると言つた調子で表面のことは兎
も角裡面は餘り美しくないやうだ。

政友會は又夫れ以上に混沌としてゐる、前の警視總監宮
田光雄が支部長をして采配を振つてゐて、議長中川庄九郎
は其の部下に屬してゐるが、之に對立して前議長を勤めた
西田周吉が中央と地方とは違ふと言つた調子で權勢振つて
ゐる、夫れに濱田國松は副議長石原圓吉を乾分にして一城
廓を構えてゐる、加藤衆四郎も亦水谷や大野と言ふやうな
縣會議員を乾分にして独自の行動を採つてゐるので、政友
會三重縣支部と言ふものゝ内容は足竝が揃つてゐない、詰
り唯我獨尊の連中が居るからだ、此調子では政友會の前途
も餘り頼もしくも無い。

夫れと同じやうに眞に唯我獨尊の地位を占めてゐるのは
例の尾崎聖堂である、度會郡を根據にして政黨政派に超越
し聖堂會の傘下に集るものは随分多い其の中には政友も居

れば民政も居ると言つた調子、併し是等は縣政には餘り關係を持たない組で、唯だ學堂一人の個人的集團と見て可い、従つて牧民の長官が多數を占むる政友——宮田を中心として行動するのは已むを得ないことであつて、夫れを兎や角言ふのは間違だ、政友系の現状からすれば來るべき選舉に現勢を維持し得るかドーカを怪しむと同時に、民政が多數を占むることも亦疑はれる。

滋賀の卷

鈴鹿の峠が平けられたので三重から滋賀に出るのにには雜作がない、併し縣廳は縣の片隅大津にあるので厄介だ。何でも明治二十四年頃、縣會が彦根に縣廳を移すことを建議して、大騒動を起したこともあつたさうだが強ち無理ではない、當時は有名な中井櫻州が縣令を勤めてゐた、彼れ櫻州は中央移轉派に對し、夫れ程縣の中央に移したければ琵琶湖の眞中に持つて行け。と言つたとやら言はれてゐるが、偏在してゐるのは事實で京都府廳に縣政を執行せしめても

餘り變りは無い位だ。

今の縣廳舎は、櫻州中井弘が縣令時代に造つたものであつて、櫻州居士が歐米旅行中に得て來た新智識で自ら設計したものと言はれてゐる。工費八萬千圓、明治十九年から廿三年に亘る繼續費で新築したものだ。今でこそ見窄らしい西洋館ではあるが、明治廿四年當時は縣民を驚かしたものだ、モ一改革の時期に達してゐるが夫れを贅すれば又候移轉問題が擡頭するのは必定であるばかりか、此財政難のときに役人の爲の廳舎を建てる必要も無からう。

長官は除野康雄、明治十八年熊本の産、世間の人は熊本の出身と言ふことと安達内相とを關連せしめて熊本閥だと言つてゐるが、四十五年帝大出の連中が既に知事に爲つてゐる今日、四十四年出の彼が特に閥の爲に利得した譯でもあるまい、併し彼をして今日民政系と言はしむるに至らしためたのは、政友會内閣時代の鈴木内相がそう爲らしめたのだ。彼が秋田縣内務部長時代に運悪く知事の中野邦一の下に

仕えた。彼れ中野は憲政會の爲に犬馬の勞を採つて秋田縣

言つてゐる。

知事にして貰つた因縁で、隨分秋田に於ける民政黨の爲に活躍した。其の下に居て女房役の内務部長が何事もしなかつたと言ふ理由で、鈴木内相は鹹首したのである、併し中野は剛腹な男で内務部長や警察部長の事務的意見を容れるやうな男ではない。自分が確心を得たら人が

彼は子煩悩な男で、地方官として各地に轉々するのに子供を伴つて行くのは可愛想だ、何れ内閣が變つたら鹹られる商賣ぢやと感じたものか、東京郊外にモダンな愛妻と子供二人を残して官舎で不自然な孤獨生活を續けてゐる、で

何と言はうが斷行する勇敢さである

いろく噂の種を蒔いてゐるが、何れ男だ

のに、其の事理も辨えないで補佐

ものイヤ夫れも血氣盛りのときだも除の噂の全部を否定することは出来

宜敷を得なかつたイヤ彼も矢張り

野ないであらう、併し武士道を嗜ん

熊本閔だと言ふやうな輕薄な考で

康で柔道や擊劍をやつてゐる、何れ

鹹つたのだから、人間で意氣を有

雄も四段の豪のものだから昔縣會を

するものは其の無理に對して反抗せ

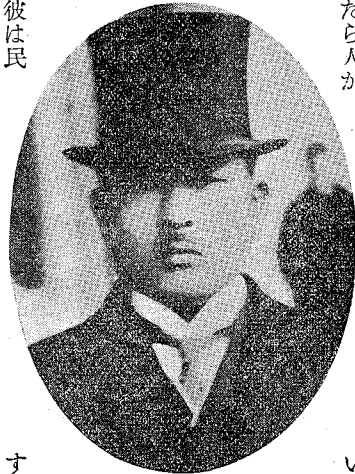
包圍した俠客常世川の連中を相手に

ざるを得ないことに爲る、そうして彼は民

するのも朝飯前の仕事だらう。劍道と言へ

政黨に走つた例の選舉監視員にまで爲つて政友内閣の攻撃に力めたのであるが、彼の實際を知るものは、彼は事務的手腕を持つてはゐるが何事も自發的に積極的にやらない男だから、夫程に喜三郎大臣が眼を失らす必要は無かつたと

ば明治初年の滋賀縣會にも籠手田安定と言ふ達人がゐるて滋賀縣を治めたことがある、餘り大した仕事もし得なかつたが矢張り彼も亦其の型を履むのではあるまいか、天津の景色を一人で楽しんで居るのが惜しい位なら、早く愛妻を官



舎に迎へて落附いた上で来る縣會議員の選舉對策を講ずるのが、彼公私生活の爲に得策であらう。

○
内務部長は山口尙章。彼は十九年の長崎生れ、四十四年に早稻田大學を出て愛媛縣に屬官をしたり郡

長理事官と約六年間も愛媛縣の飯を喰

つたものだ、福岡や佐賀の理事官

乃至は岩手縣警察部長と爲つて十

五年には鳥取縣内務部長まで漕ぎ

附けたが、昭和二年に休職と爲つ

たのが四年に現在官に就いたのである、

非常に温厚な人で事務官肌だから縣民の氣受

けも餘り悪くはない、唯だ長官除野の女房役とは行かない

が刀筆の良吏と言つて可い。

土木課長は櫻井哲三、大正五年東大工科の出身、埼玉京都で鍛えあげた腕は初任の香川縣土木課長としては左程の失敗も見ずに終つたのだが、滋賀縣に凡轉して來ても彼は



一向仕事らしい仕事を目論まない、或は是まで彼が經巡つた縣が何れも貧乏縣ばかりで、彼の手腕を振はすだけの餘地が無かつたのかも判らないが、彼は圓滿家だけあつて改革的の手腕を振はない缺點が圓滿の裏に隠れてゐる。例を

道路のことに採つても、幅員二間半主義が

滋賀縣の從來の政策ぢやと言つて、自

山 動車交通の發達した今日でも尙夫

口 れを改革しやうとはしない、成る

尙 程是では無難だが折角の道路の改

章 良も效績が擧らないことに爲る。

モ一尠し圓滿主義を抑制し先輩が案

した計畫であらうと何であらうとを問はず

に、彼の欲する所に従つて改革するだけの氣概があつてほ

しいとは、必ずしも筆者ばかりの希望ではない、長官も自

發的に仕事をしないとすれば彼が出勤して滋賀の里を開發

するより外に途がないのである。

○

昭和六年度の歳出は六百一萬圓、夫れに土木費は二百十八萬圓で警察費や教育費よりも澤山に出してゐる。夫れに惠まれたことは五十六萬圓の借金があるだけだ、従つて事業を計畫すれば財源が無い譯ではない。由來滋賀縣は地勢の關係で天井川が多い夫れに急勾配が手傳つてゐて出水毎に困つてゐるから改良を要する河川が随分

に多い、夫れは舊藩制時代に山林の亂伐をやつたので河川の状態を一層不良にした、で河川の改良に先だつて砂防工事をやらねばならぬ、夫れに確定的の改良策が樹てられてゐない、殊に道路の改良に至つて

は一層の急務とされてゐる、昔堀田義次郎

が知事をしてゐた時代に、随分思ひ切つて府縣道を認定したもののだつたが、夫れは唯だ幅九尺にも足りない町村道を昇格せしめたと云ふだけで道路交通には何等の貢獻をしなかつた、勿論滋賀には琵琶湖が縣内の中央部に頑張つてゐ

るので水上交通で事を辨した時代もあつた勢で、縣下を一貫した道路と言ふやうなものは藥にし度くても見附からない、義次郎知事が其の道路交通を抑えた琵琶湖を逆に取入れて湖畔の遊覽道路を計畫したが、今は雲煙化して湖北木之本邊に其の一部が残されてゐるだけだ。彼れ堀田は今も

尙言囃されて居るやうに政友會の爲に盡し



たものだが、今は民政黨員と爲つて

櫻 政友の爲に惱まされてゐるのも、

井 身から出た錆とは言へ氣の毒だ、

哲 同じ姓の堀田鼎の知事時代に夫れ

三 を變えて昭和四年度から十三年度

に至る十年間に亘つて八百八十萬圓

で國道と重要府縣道の改良を計畫し滋賀の

路政を改革しやうとしたが、實行期に入つて例の財政緊縮の爲に折角成立した豫算を半減した。此様な次第で堀田の計畫もどうやら怪しく爲つて來たのを、田寺俊信が知事と爲つてから之を廢止し、代ふるに六七兩年度で二百六十萬

圖を以て堀田案の一部を失業救済の名義で執行することに
した、残された道路に就ては何れ堅實な財政計畫を樹て、
改良すると言つてゐるが、矢張り堀田案廢止の尻拭をして
ゐない。

幸か不幸かは判らないが縣の中央に頑張つてゐる琵琶湖
を中心にして、縣勢の發展を圖らなければならぬ、夫れに
はどうしても土木のことが緊要だ。

滋賀縣會議員は旗色を鮮明にして民政兩派に區別され、
中立とか其の他の黨派に屬するものは一人も居ない、定員
三十に對し民政十一、政友十九と言ふ勘定に爲つてゐる、
夫れは昔、民間知事とニツクネームされた程の快傑井上敬
之助が居て、縣下を政友化したお蔭だ、彼は滋賀の山川草
木いづれも政友色ならざるはない。と豪語した程政友の爲
に活動したので今も尙其餘焰が残つてゐる。

民政黨は代議士堤康次郎を支部長として統制されてゐる
彼れ堤は四十三歳の壯者であるが、愛知郡八木莊村の豪家

に生れ、早稻田の政治經濟科を出て箱根土地の重役をして
ゐる、手腕もあり金もあると言つた調子で民政黨でも總務
の地位を占め田中養達やら青木亮貫等を統制してゐる、夫
れに對立して政友會では現代議士の清水銀藏を支部長に頂
いて十九の縣議を統制してゐるが、彼清水は政界の古武者
と言ふだけで堤のやうに鬭争力が薄いやうだ。併し貴族院
議員の吉田半次郎が裏面にあつて後援してゐるから餘り輕
視する譯には行かないが、來るべき縣議の選舉には堤の勢
力がどの邊まで喰入つて來るかは蓋し見物であらう。

從來兩黨は木炭検査と米穀検査の縣營とに就て抗争を續
けて來たのであるが、田寺知事が米檢の原案執行をやつた
のを最後として兩派の争は終焉した。何も政見が異ると言
つて縣民の爲に利益と爲る仕事に特にケチを付ける必要も
ない、矢張り筆者が言ふ所に従つて兩派とも相提携し琵琶
湖を中心に産業の發達に力めるのが縣民の爲だ。

靜かな平安の都、布圍きて寢てゐる東山を背景に總ての
人が居眠つてゐるやうだ、詩的に言へば靜か、經濟的文化
的に見れば居眠り、之が京都らしいと言はるゝ所以だ、ダ
ーラーリーの帶よー、と言つた調子の枝垂れ柳の街の前に

控えて建つてゐる二階建西洋館が、私の訪れる京都府廳、
柳の街は知事の希望とやらで鋪裝され府廳

の庭の綺麗な玉砂利と相對して奥ゆ
かしう見える、庭の手入れにさえ

澤山な費用を投じて京都情緒をそ
ゝるやうに力めてゐるのは、風雅

なやうにもあるし氣の毒なやうな
氣もする、何でも明治の初年同郷の

先輩西郷隆盛を暗殺する官命を實行しやう
として捕へられたことで、名を擧げた高崎親章が知事の時

代に計畫した廳舎ちやと言はれてゐるが、兵庫縣廳を建築
して得意に爲つてゐた大森鐘一が來て夫れを兵庫縣式に變

更し、三十六萬圓の金を以て建てたのが今の府廳である、

郡制の廢止に依つて役人が殖え千四百坪の廳舎も狭く爲つ
たので、杉山四五郎が五十萬圓で建増をして用を辨してゐ
る、貧乏な府だが京都と言はれる名を保つ爲に此位な建築
は已むを得ないであらう。

長官、佐上信一、濱口内閣の成立と同時に内務省地方局
長から現地位に左遷された、轉任の報都大

路に傳はると言ふと少々大き過ぎる
佐 　　が、夫れが京都人の耳に遺入つた

上 　　とき、民政黨の支部は佐上知事排
信 　　斥を決議し彼れの赴任を京都驛で

一 　　彈劾しやうとした、夫れは政友系
に屬する府會議員某が佐上知事歡迎

の演説をやつたのに焼餅を焼いた勢だつた
が、此度は又政友會支部が知事排斥の聲を擧げやうとした

こゝして政民兩派から排斥されたお蔭で彼の政黨色はほか
されてしまつた、詰り自分の心情を第三者が表明して呉れ

た勘定に爲つて彼は旨い儲けをした譯だ。



成る程彼が是れまで進つて來た過程をみると、或は政友會系と見らるゝのも強ち無理は無からう。大正五年熊本縣理事官から内務省に這入つて道路課長を勤め、時の土木局長堀田貢の許で道路法を仕上げ名課長と謳はれたが道路法の制定が原内閣の一大成績であつただけに、夫れに依つて行はれた府縣道の認定は黨勢擴張の具に使はれたやうに言はれてゐるから之に加擔したやうにも見えるであらう、夫れに局長堀田が道路法制定の勞に酬ゆる意味で水野鍊太郎内相の秘書官にした、是で水野系と目され政友黨色が附いたやうにも見られるであらう、夫れが又清浦内閣の水野内相時代に神社局長に榮進した、此様な調子だつたから十四年憲政會内閣と爲つたときは岡山へ放逐され、其の後政友會内閣と爲つて長崎にやられたが、喜三郎内相の失脚に次いで同郷の先輩望月圭介が内相と爲つたので彼を地方局長に呼び戻した、此處まで列べて來ると大概の人は政友系と思ふであらう、一面無理も無いことだ、併し水野は政黨員と言ふよりも純吏と言つた調子の男で、事務的手腕のある男な

ら誰彼なしに可愛がる、民政黨の懷刀と言はれてゐる伊澤多喜男の乾分、大阪府知事柴田善三郎でも、良吏と言ふ點から随分水野に可愛がられたものだ、だから彼れ佐上が水野の秘書官と爲つたのは事務的能力を認められたに依るのであつて、水野が内相を罷めて後藤内相に爲つても矢張り彼が秘書官であつたことは一層夫れを物語るであらう、若し政友系の人であつたら田中内閣が組織され地方長官の交迭をやつたとき長崎あたりへ態の良い左遷を喰さ無かつたであらう。成る程望月内相時代に地方局長に戻したことは政黨出身大臣の下に來たのだから黨色を帯びたと言ふであらうが、餘り喜ばしいことで無いにしても夫れは望月と同郷と言ふ私情から出たのである。彼れ人情大臣は野良育ちで多岐複雑な内務行政を知らない、誰か指導がほしいと言ふときに、同郷と言ふ人情で望月の下で働いただけに止る、だから筆者は彼を純吏と言ひ無黨色と言ふのである。併し内務省で黨色の附いた幹部あたりの見解は必ずしも筆者の見解と一致してゐない、彼等に佐上知事に對する感想如

何。と尋ねてみると、實に彼は利巧に立廻る男だ。彼の如く身を護るに上手な人は今の府縣知事の内に發見するこゝとが出来ない。と答へる、詰り彼が政民兩黨に満足せしめて府政を執行しやうとする手段の反面感に外ならない、いづも言ふ通り知事は事務官であると言ふ觀察からすれば寧ろ利巧に立廻るのを貶す方が間違なのであらう。併し幹部が此頭であるから警察部長に井上英を廻して知事を監視せしめたり、井上が去れば福田虎龜を内務部長にしたりするのであらうが、左様な陰暗な遣り方には餘り氣を揉まない方が可いだらう。道路課長時代に於ける道路法の制定、秘書官時代に於ける文書課の改造、神社局長時代に於ける神社法規の整理や神社制度調査會の計畫、地方局長時代に於ける財務官の設置乃至行財兩政の整理等は彼の效績として今も尙囃されてゐるが、岡山や長崎の地方長官時代には餘り目ぼしい仕事はしてゐない、矢張り財政緊縮の訓令に恐縮し命令遵守の事務官的な型を表はした勢であらうけれども、此時代に遭遇しても他の知事が相當な置土産を拵えて

ゐるのに彼が三部經濟の廢止や京都市域の擴張位を完成したゞけで餘り著大な事業を實現しないのは、矢張り本省タ イプの事務的才能があるだけぢや無いのでは無からうか。昔、内務總務長官今の内務次官から出て十五年間京都府知事であつた大森鐘一、京都では何事もしない唯だ京都を守護するだけぢやと言はれてゐたが、夫れでも由良木津兩大河川の改良や相當な土産を残してゐる、安達内相がドー睨んでゐるか判らないが、左様なことはどうでも可い、表に顯はれた放膽さで例の精力絶倫のところを見せ、京都府民の爲に一肌ぬいで呉れても可いであらう。

内務部長、泊武治、朝鮮の人事で茨城縣知事の牛島省三が朝鮮に渡つたので又も地方長官の交迭が行はれ、山梨に榮轉した福田虎龜の後を襲つて警察部長から内務部長に爲つた。

彼は大正四年帝大を卒業して北海道廳屬を御町守にも三ヶ年も勤め其の上に道廳警視を一年勤めたが八年警視廳警視に爲つて、十五年に島根縣警察部長に轉するまで約七年

間も東京市内の警察署長や工場監督官で暮した。言はゞ警察育ちの男であるが、温厚な男である爲に餘り人からも見抜かれなくて同じ場所に永住する浮目を見たのだが、石川縣人を妙に好きがる次田警保局長に可愛がられてからトントン拍子に出世したものだ、福田が知事に榮

轉したとき、其の後任には福島のお金孫

太郎が行くべき筈に爲つてゐたさう

だが、夫れでは佐上監視の役に立

たないと言ふので、彼が榮進した

のぢやと内務省内の雀は言ひ囃して

ゐる、併し假令夫れが事實であつたに

しても、彼佐上は泊に尻の毛を敷えられるや

うな男でないから、恩人の命令は命令として、同じ役人ぢや

協力して府政を執行することが彼將來の爲利益であらう。

○

土木部長調所武光。無口で謹嚴な男、饒舌家の知事佐上
の下には不似合な程の男だが、岡山で彼れ佐上に使はれて



からいつも其のお尻に附いて巡行し今の職に就いた。四十年京大工科の出身で地方土木行政にも幾多の經驗を持つてゐるから今の地位を占むるのは當然だが、近來は意氣銷沈して昔の調所ぢや無いと言はれてゐる、鹿兒島の華族出身だから京都のお公家と遊んでばかり居る

からだと言はれ、イヤ知事が土木行

泊 政通で餘り干渉する勢だ、と色々

に囃されてゐる、此頃では技術の

武 ことは勿論浮世離れをしてゐるや

治 うにも見える、夫れに加えて彼の

女房役であるべき小笠原技術課長も

同じ型の男で、土木部を訪れた人は坊主臭

い部屋だと言ふ感を起さずには居られない。

佐上知事に言はすと、政治家肌の技術官は嫌だ、彼調所

は謹嚴正直なもので金錢などには恬淡で政治家的行動をし

ないから安んじて土木行政を一任することが出来ると、成

程彼れ佐上の目にとまるに違ひはない。併し夫れだけを

以て土木部長の職が務まる譯ではない、府民の利益と爲る仕事を目論んで、餘り著大な仕事をしやうともしない知事の尻を叩くことが肝要であり、調所の任務である。

長官八幡橋が出来上りました、高欄の色合をドー決定しましせうか、と、伺を立てる、すると長官

佐上は直ぐ自動車を飛ばして橋畔に

行つて夫れを決定し、彼れ調所を

願て言ふやうには、橋の色を選択

するのは六ヶ敷ことで背後にある

八幡山の自然色を調和したもので

なければならぬ、と教えるのである。

是だから調所は手も足も出ないと言つた調

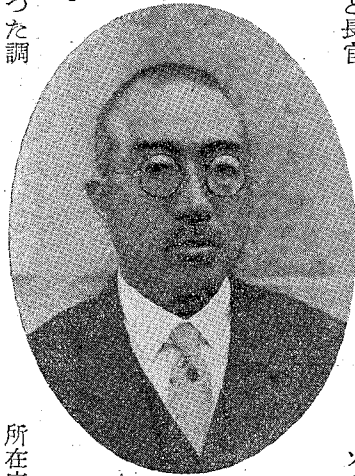
子、併し夫れは餘り親切過ぎて干渉と言ふもの彼れ調所を

可愛がるのなら手腕を振ふ餘地を與えてやらねばならぬ、

長官自ら石工を指揮して鞍馬の自然道路を設計するやうで

は彼れ調所の伸びる餘地がない筈だ。眞眞の引き倒しに爲

らないやうに仕度いものだ。



調所も亦立派な技術的見識を持つてゐるのだから、夫れを十分に發揮して、素人の論を打破るやうに元氣を回復することだ、彼が餘り遠慮して命是れ畏つてゐては、遂に知事は土木部長制度不要論でも唱えるやうに爲るかも知らぬ、

ソ一なれば豈に獨り彼調所の損ばかりではない、他人の迷惑とも爲るであらう

調 心すべきだ。

所 ○

武 奥丹後の震災を蒙つてから極度

光 の貧乏世帯と爲つた京都府、六年

度歳出總額千九十五萬圓、六大都市

所在府縣で神奈川に次いでの貧乏格、夫れに

税源は制限外課税をしてゐて、お隣りの大阪や兵庫に較べ

ると重い方である。借金は千六十八萬圓の多きに達して年

額百二萬圓も償還せなければならぬと言つた有様だから、

土木費は百六十二萬圓、夫れに都市計畫費五十七萬圓が總

て土木事業に使はれるものと見ても總計二百十九萬圓しか

ない、此調子だから仕事をして呉れと言つたところで無理な注文かも知れぬ。併し何れの地方を眺めても税源に餘裕あるやうな所は東京と大阪位で、いづこも同じ秋の夕暮れ感があるが、夫れでも何とか工面して新事業の建設をやつてゐる。此處、京都でも考へて見れば相當の財源はあるやうだ、確かなことは知らないが、六年度豫算の編制に方つては三部制の撤廢を機會に税制の改革をやつたさうだが、モ一歩進んで合理的な税源でも見附けて貰ひたかつた。聞けば河川の不用地やら府有財産の不用のものを整理賣却しても相當のものがあると言はれてゐる、是等を財源にすれば相當な仕事が出来得る筈だ。

○ 中央政治に表はれた政友會の勢力は微弱で民政六に對し政友三と言つた割合に爲つてゐるが、府會の方は夫れを逆にして政友二十四に對し、民政十三、同志勞農中立各一名で、いかに民政黨が意張つても政友に押され勝た、民政黨内閣に爲つても政友會が今日の現勢を維持して居るのは、

昔奥繁三郎や木戸豊吉と言つた先輩が政友種を植附けたお蔭だ、今は支部長も置かないで、奥繁の息子主一郎や代議士の磯部清吉、中野種一郎等が共同して支部の統制に力めてゐる、一方民政黨に於ても例の片岡直温やら代議士森田茂、津原武、村上國吉や田中祐四郎に依つて支配されてゐるが、民政黨京都支部は常に問題ある毎に往々二つに分れることがある、夫れは直温片岡と森田茂の二派が常に相合はない結果であつて、是等の二頭が心を合せ協力して活動しなければ、いつ迄經つても民政黨の大を爲すことは出来ないであらう。併し二頭の結合は勢力の争ばかりではない、性格の相違だから永久に亘つて或は不可能であるかも知れぬ、従つて吾が京都では政友の全盛が此後も維持さるゝであらう。

府會では政友派の連中が同交一新會を造つて、市部郡部の政友系は勿論之に同志會系と中立議員とを参加せしめ、二十六名の絶對多數を制してゐるから、中央に於て政府與黨たる地位を占めてゐる民政黨でも、所謂與黨らしい働は

出来ない、若し強て之を計畫すれば、修正さるゝか否決さるゝの運命に在る、そこで知事に對して色々な注文をするが、多衆で決定さる府政を蔭で左右することは出来ないの直ぐ勿附けられる、夫れを中央に持ち出して彼れ佐上のことを色々々に宣傳するのであるが、夫等議員は口に立憲政治を唱へ手で夫れを破らむとする連中だ。時に片岡が夫等の連中の宣傳を打消しにかゝるのも蓋し當然であらう。

此様な次第だから知事の立場は寔に苦しいものだ。民政黨も黒幕政治を罷めて黨勢の挽回に盡すのが必要だし、政友會にしても札附きの並川榮慶坊主などを擔いでゐては、いつまでも卿等の天下ではない、時勢は舊式な政治ゴロを見捨てゝ進んでゐることに氣を附けるが可い。

大阪の巻

煤煙で燻つた大阪驛に降りてタクシーに乗る、アー政府ダツカーと問はれて府廳ぢやと答へる、此處、大阪では府廳のことを政府と言ふのぢやさうな、だから大阪市役所で

も其の向ふを張つて市廳と言つてゐるさうだ、贅穴は矢張りお役所を偉いものと思つてゐるらしい、夫れは夫れとして府廳の在るところは東區大手前之町、氣早やの江戸ッ兒は大手町と言ふだらうと思はれる前之町に政府を訪れた。江戸の大手町にある本家内務省のバラック建とは違つて逋は帝國經濟中心地の役所ぢやと度膽を抜かされる、鐵筋混凝土の七階建、秀吉の築いたと言はれる大阪城を瞰下する大建物、高さ百尺總延坪九千二百三十七坪、日本一と囃されてはゐるが夫れは筆者保證の限りではない。

此建築計畫を樹てたのは、辛蔓知事の名を戴いて各地で政友會のお手先に使はれた池松時和であつて、夫れを執行したのは松島遊廓移轉問題で噂を立てられた中川望であつた。最初は江ノ子島にあつた舊廳舎の建物と敷地とを賣つて建てる目論見であつたのを後に爲つて一般會計で建てたものと言はれてゐる、建築家に言はずと自由近世式の様式ぢやと言つてゐるが、兎に角土人は大阪名所の一つに數えて田舎者を驚かしてゐる所は矢張り大阪式だ。此近代的な

建物の中に働いてゐる人間も近代智識を持つてゐるだらうか、之から解剖する。

○
長官柴田善三郎、内務省の幹部が、大阪の柴田は本省よりは三日程前に地方行政に關する新方針を樹てると、賞めてゐたことがあるが、彼は夫程に地方長官中の逸物視しられてゐる、三十七年に赤門を出て

田中政友會内閣時代に誠らるゝ、ま
で餘り大きな失策もなく行政の實
際の方つたのであるから、政變ある毎
に交迭する内務省の幹部よりは少し可い智恵
の出るのも當然だらう。

彼は純眞な事務官肌の男で政黨方面——政府與黨の連中から彼は頼まれても夫れを無條件に承諾するやうな男ではない。矢張り事務官的考察を加えてから理屈が附くものなら頼まれた方に扇を擧げしむる程度のことしかしない、で



黨臭芬々たる喜三郎内相のお氣に入る筈はなかつた、で政友會内閣と爲つて愛知縣知事を誠られたのも當然であらう。併し鈴木内相の人事は田中内閣の秕政の一つとして殘されてゐるやうに、人の善悪は勿論手腕の程も知らないで、

地方黨員の言ふが儘に決したので、随分有用な人物を政友會の周圍から失つた。

柴 殊に水野鍊太郎が植えて置いた純良な知事までも反對黨に走ら
善 しめた、彼柴田も走つた連中の一人である、固より彼は今時めく伊
郎 澤多喜男が愛媛縣知事時代に其の下

に事務官として仕えた、其の當時から伊澤は彼に矚目してゐた。彼も亦伊澤を尊敬しつゝあつたが、水野鍊太郎が朝鮮政務總監をやつて居るとき、彼の事務的才能に惚れて、彼を學務局長に拔擢してから愛知縣知事になるまで引張りあげた、夫れで水野を親分とするやうに爲つてゐたのであつたが、腕の大臣喜三郎は水野系統知事の

一掃を策したのであらうか夫れを誡つた、夫れに憤慨した
彼柴田は、芝白金の邸宅に恩人水野を訪ひ喜三郎の無謀を

説き、昔長官として仕えた伊澤の請を容れて民政黨に移る
から悪からず思つて呉れと挨拶したさうだが、喜三郎大臣
の人事は此くして有用な人物を反對黨に走らしめたのであ
つて、政友會としては取返し附かぬ損をした譯である。

併し夫れは餘り將來を稽えない遣方であつて、苟も將來政
友會をリードして行かうとする人としては大きな失敗であ
つた、是あつて以來、民政黨でも鈴木の失敗に鑑み、敵に
してはならない人々に對しては、周圍の私情に捉はれない
で人事を決するやうに爲つたと言ふ話である。

彼柴田は夫れ以後は立派な民政黨色を翳して政友に對抗
するやうに爲つて、例の選舉監視員の群に参加し前任地愛
知や三重福岡と監視の役目を務むるやうに爲つた、福岡で
政談演説をやつたときなど、前の知事さんだと言ふので多
數の聽衆を集め、それに加えて彼一流の雄辯を振つたから
聽衆は皆彼の所論に同化される景氣であつた、之を聞いて

ゐた村地警察部長は演壇から彼柴田を引づり降した位に民
政黨の爲に奔走したのである。

其効果が表はれて民政黨内閣が成ると同時に北海道廳長
官に擬せられたが遂に大阪に廻された、彼は復活知事とし
て民政黨の政策の爲に忠實に働くばかりか、中央政府の政
策にまで進言して伊澤派の爲に氣焔を擧げた、國産品獎勵
の政策でも今は政府の一枚看板に爲つてゐるものゝ矢張り
彼が企てた計畫であつて、自ら夫れを大阪で實行し畏いあ
たりては態々待從を御派遣に爲つた位に成功した、失業救
濟問題にしても矢張り最先きに手を付けて範を示したばか
りか、大阪方面に於ける大實業家をして現政府の方針を謳
歌維持せしむる様にしたのも矢張り彼の效績である。併し
彼柴田をして之を爲さしめたのは、先達て佐賀縣知事に爲
つた内務部長半井清の助力が大に與かつて居るのは勿論で
ある、此調子だからピカ一知事の尊稱を奉るものが出來て、
近頃には珍しい親任官待遇と爲つたのである。當時柴田を
親任官待遇にするなら、まだ先輩の牛塚が居るから共に昇

格せしめねばならぬと言ふ意見もあつたらしいが、在官の年限で昇格せしむるのではない成績に依るべきであつて、牛塚は何事もしないぢや無いか、と言ふ意見が多数を占め、結局牛塚は對照物にされたゞけ損をしたと言はれてゐる。

政府の方針を遵守して先づ網紀肅正やら財政緊縮の實を擧げる爲に、廳員の官廳用自動車の使用を制限し、出勤の爲に自動車を_usingしてはならぬ。從來部下が郊外電車や鐵道會社から貰つてゐた乗車券は全部返却せよとか、日本式の料理屋へは一切通ふてはならぬ、酒を呑んではならぬと隨分嚴しい訓令を出して網紀の肅正に力めた、で部下の吏員は流石は民政黨の知事さんだとは感心しない、詰らない小さな事を言ふ知事ぢや、と部下のものは怨んだ、巡查や警部のやうな官服連は別としても、家賃の高い市内に家庭を持つことの出来ない平服の連中は、せめてパスを呉れるから郊外にでも出て生活したのぢや、知事さんは國有鐵道のパスを使用してゐながら吾々が貰つてゐる市電のパスまで貰ふなど言ひ、自分が今酒を呑まない否病氣の爲に呑め

なく爲つたから吾々に禁酒を獎勵するのぢや、と部下からは呪詛されてゐる。一言にして言はゞ一將功成つて萬卒枯るゝの感が無いでもない、併し彼柴田は是れ迄は部下を愛すると言はれてゐるから、彼が去る迄には何とか埋合せをするであらう。廳員も其の氣で暫時待つて居ることが必要だらう。

大阪人間は利巧だから官に居る間は何等の非難も加えないが、一と度官を退けば勝手な批評を加える、今では大學を慥えたりして人氣を博してゐるやうにも見えるが、扱て退官後は如何様の批評を受けるであらうか、夫れは言はずとも知れたこと、詰らぬ小さなタイプの民政黨の知事ぢやつた。

内務部長坂間棟治、明治十九年神奈川の産、知事が親任官待遇だから内務部長も勅任官待遇、大阪人間が府廳のことを政府と言つて呉れても官位には不足はない。

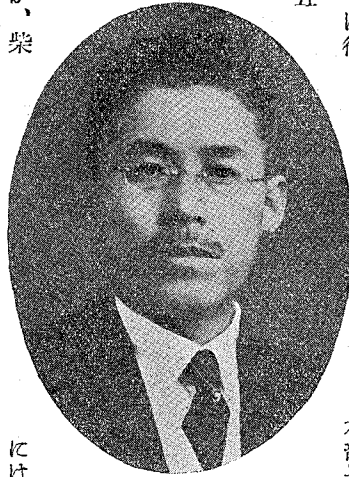
彼は四十五年に帝大を出て岐阜縣の見習から大阪府理事官に爲つた大正八年まで七年間も長良川の水を見て暮した

大阪府に來任したときは今の知事柴田が内務部長であつて互に相交つたものだ、其の後柴田は朝鮮に、彼は富山、愛媛、宮城、香川、廣島乃至は兵庫と轉々して内務部長を勤めたが、今は又柴田を慕つたかどうかは知らないが兩者再會した譯である。

併し彼は今頃大阪府の内務部長位では役不足であらう、夫れと言ふのは四十五年出には山中埼玉や堀田千葉、鶴

澤諍岡、湯澤宮城と言ふやうに同輩がとくの昔に知事に爲つて景氣良く働いて居るからだ。併し夫れは君の手腕の然らしむる所か夫れとも純眞事務で通した勢かは知らないが、柴

田が親任官待遇に爲つたのは前部長半井清が女房役として援助した勢だと言はれてゐるから、彼が半井に敗けないやうに活動するか否かを監視してゐる内務省の幹部が有る筈だ。併し餘り忠勤し過ぎて民政黨の黨員ぢやと言はれるの



も考へものだ、大に善處するが可いだらう。

土木部長澁江武、彼は大正四年九大工科の出身だが、學校を出て福岡縣の技師を勤めてゐるとき、今の長官柴田が知事をしてゐて知り合ひと爲つたのが素で、柴田の往く所へは必ずついて廻る、柴田が愛知縣知事に爲れば其處の土木部長に、知事を退官すれば彼澁江は内務省

に蔭れる、大阪に復活すれば又土木

部長にと言つた調子、併し彼が内

務本省に蔭れたときは随分問題で

棟 あつた。喜三郎大臣の方針を以て

治 すれば柴田の乾分なら齷首さるゝ

のが當然ぢやが、そこは難有いこと

には技術官と言ふ名が附いてゐると、儿

帳面な面をして言葉數が少いので誰も政黨的に行動しない

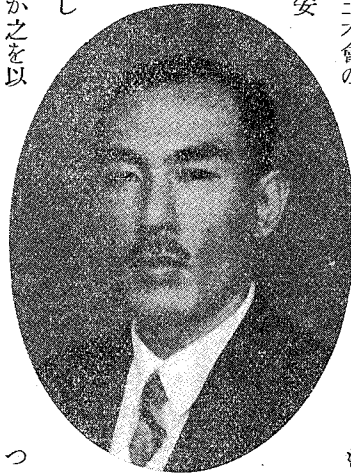
と言ふ評判があつたので大臣も知らない裡に本省の技師に

決定した、言はゞ幸運な男である。

大阪は市の勢力が偉いので府の仕事として土木界に活動

する餘地が尠い、だから當然市長が執行せなければならぬ
放射道路でも、都市計畫と言ふ名目で府が執行してゐると
言つた調子だから餘り問題もない。併し市や會社の仕事を
監督してゐる關係から監督事務が多い、之を官僚的にやれ
ば夫等會社の技師連が組織してゐる土木會の
方面から反對され、さうかと言つて妥

協的氣分にでも爲れば柴田の綱紀
肅正方針に反する、従つてサンド
イツチに爲らざるを得ない。彼が
大阪へ行つてから餘り元氣がない
のも矢張り此崇りであらう。モー尠し
活動しないと君の前途もお氣の毒だが之を以
て終るであらう。



○ 何と言つても大阪は東京に次での大世帯で、六年度歳出

は二千三百八十二萬圓、警察費の八百五萬圓と教育費の三
百二十六萬圓とに其過半を喰はれてゐて、土木費は經常臨

時を合はせて四百四十萬圓だから歳出總額に對する土木費
の割合は言ふに足らない位だ、先に言つたやうに市の勢力
に抑えられて府の執行する土木の仕事が無い勢であらうか
大阪市のお蔭で生活してゐるやうな大阪府だから、何事

も市を中心にならなければならぬことは已む

を得ないであらうが、總てのことが

江 餘り市に偏してゐる、奈良と大阪

とを結ぶ道路にしても、岸和田と

大阪を結んでゐる國道にしても漸

武 く此頃に爲つて改良しだしたと言

ふ調子である、攝津地方の郡部に行

つて見ると是が大府管内かと疑はれる位

に放任されてゐる。市郡を通じて公平でなければならぬ府

政が此調子だから、いつも郡部議員が不平を言ふのも強ち

無理はない。

復活知事のことだから府の負擔能力を考へるまでもな

く、政府と同じやうに緊縮する、成る程營業用人力車の税金

を免除したことは社會政策上可い心懸けであるにしても、新たに電柱税や軌道税を設けて之を埋め合はさんとするのは政府の赤字問題と同じであつて、政府の悪い點までを見習ふ必要も無からう。借金僅かに二百十五萬圓で言ふに足りない位だから尙借金の餘裕がある、借金してやつても尙結構な仕事が澤山にある筈だ、モ一少し積極的に大阪の郡部を開發することが肝要であらう。

大阪府選出代議士を見ると、民政十四に對し政友四、中立三と言はれてゐるから民政黨旺盛の地だ、府會を構成する議員も矢張り民政系大部を占め定員六十五名の内、民政系四十二、政友系十一、國民同志一、革新三、無産二、中立六と言ふ有様だから形式的の計算からすりや政友會は齒が立たない勘定と爲るのだが、此處大阪は中央政界のやうには計算出来ない譯がある、矢張り贅六連は意氣とか面目と言ふやうなことよりは利益に重きをおく、あの人は府會屋さんダツセ氣をおつけ。と言はれてゐるやうに府會議員

を株屋扱にしてゐる程左様に利益に走る、で民政黨員だとやつても民政黨内閣の知事の味方とは爲らない、主義政策の判らぬ小派を作つて問題に依つて自分の利益を考えてかゝる、で黨員のやうなもの的是に爲らぬ。

此様な氣分を包藏してゐるから府會の團體は至つて複雑だ。民政俱樂部と言ふのが三十五名、之は純民政黨だが、之に對して府民會と言ふ民政黨が七名ある。新生會と言つて政民合同の寄合世帯的なのが八名、純政友系と見るべき協和會が九名、革新系の公友俱樂部が三名に無所屬が二名と言つた調子で問題が起る毎に是等の團體が結足したり分離したりするので府當局も案外案なものだ、積極的に出ても消極的に出ても問題如何に依つてはどうにでも爲る。今の内閣では肝要な民政俱樂部でも今の法制局長官武内作平の系統に屬するものと、廣瀬徳藏系に屬するものと腕合つてゐるので時には分紛を起すこともあるが此調子で團栗のたけ較べをしてゐては、政府與黨と雖も與黨らしい何事も出來ないであらう。(未完)